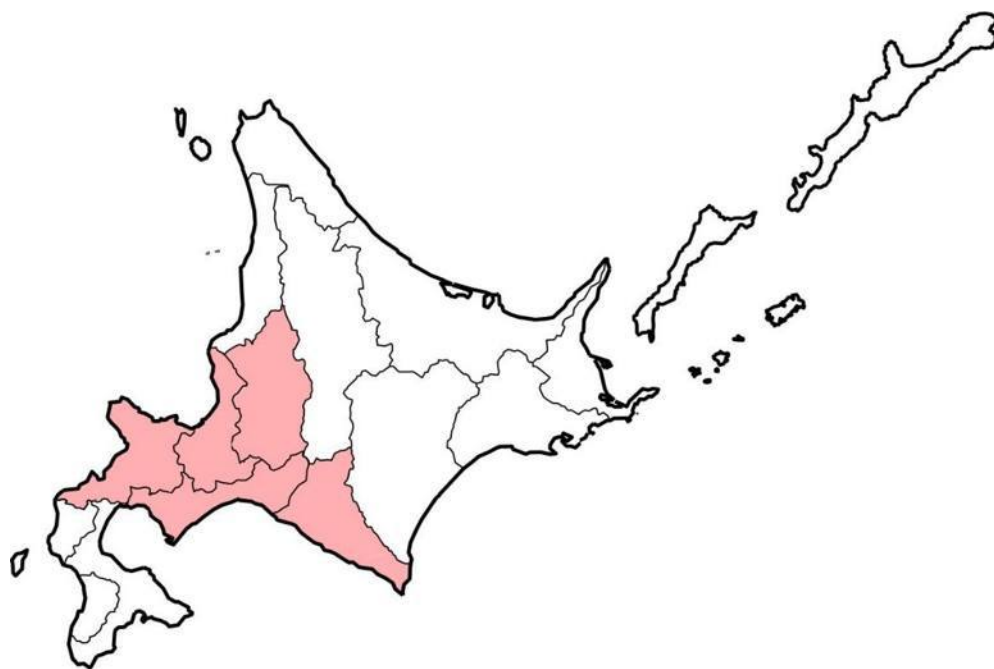


# 道央広域連携地域 政策展開方針 〔次期方針（原案）〕

空知地域、石狩地域、後志地域、胆振地域、日高地域



令和7年1月

# 目 次

1	はじめに	1
	基本的な考え方	
	方針の位置づけ	
	方針の構成	
	方針の推進期間	
2	地域のめざす姿	3
3	地域を取り巻く状況	4
	人口減少・少子高齢化の動向	
	経済・産業の動向	
4	これまでの取組と課題	21
	連携地域のこれまでの取組と課題	
	振興局所管地域の主な課題	
5	主な施策の展開方向	30
	連携地域の主な施策の方向	
	振興局所管地域の重点的な施策の方向	
6	地域重点政策ユニット	35
7	方針の推進	81
	推進の考え方	
	効果的な推進	
	推進管理の体制	
8	附属資料	84
	地域重点政策ユニットと持続可能な開発目標（SDGs）との関係	
	用語解説	

(注) 本文中の「○○○\*」は、用語解説に掲載する用語を示すもの。

# 1 はじめに

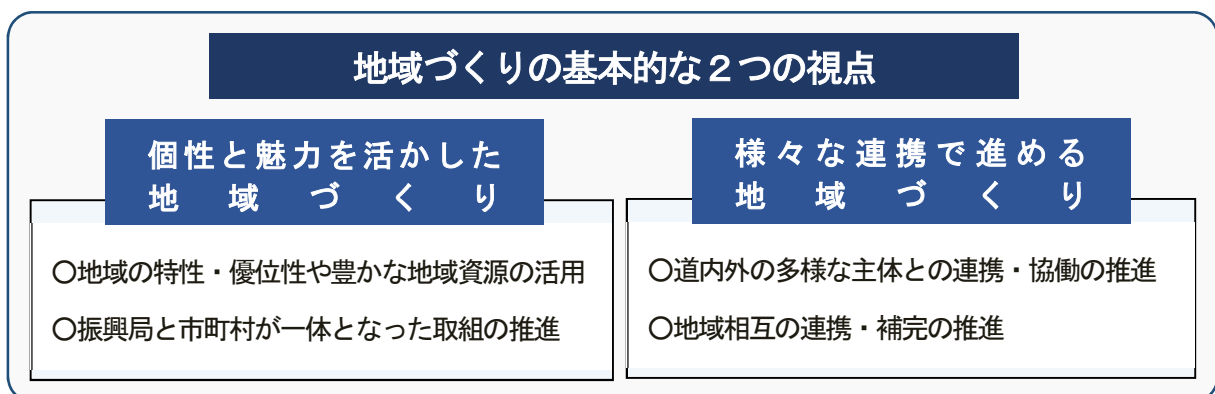
## 基本的な考え方

人口減少と少子高齢化が急速に進む中、人口の偏在や地域社会の縮小など、地域の課題も多様化していますが、本道の多くの地域においては、経済・産業や暮らしに直結する課題に加え、激甚化する自然災害や巨大地震の発生リスクへの備え、さらには、国際情勢の変化を背景としたエネルギーの安定供給、食料や経済の安全保障など、様々な重要課題に直面しています。

一方、我が国最大の供給力と高い品質を誇る農水産物、魅力あふれる食や観光、豊富に賦存する再生可能エネルギー<sup>\*</sup>や豊かな自然環境など、それぞれの地域が持つ特性やポテンシャルを活かした取組が一層重要となっているほか、ICT<sup>\*</sup>やAI<sup>\*</sup>などデジタル技術の様々な分野への活用、脱炭素化<sup>\*</sup>の取組など、社会が大きく変革する動きが各地域において広がりを見せています。

こうした中、各地域がそれぞれの変化や課題に柔軟に対応し、将来にわたって発展していくためには、道民及び市町村の創意と主体性が発揮され、地域固有の特性や多彩な地域資源などをこれまで以上に活用した取組や人口減少の抑制に向けた取組を持続的に進めるとともに、市町村、振興局所管地域、連携地域はもとより、医療圏<sup>\*</sup>や地域福祉圏<sup>\*</sup>など行政区域や住民生活に根ざした様々な地域単位で、ネットワーク化を進め情報や知見を共有し、適切な役割分担を図るなど、相互に連携・補完し合うことが必要であり、さらには、官民連携をはじめ多様な主体が連携・協働していくことが重要となります。

この方針は、北海道総合計画（以下、「総合計画」という。）第4章に掲げる次の基本的な2つの視点に基づき、第3章に掲げる「潜在力発揮による成長」、「誰もが可能性を発揮できる社会と安全・安心な暮らし」、「各地域の持続的な発展」の3つの政策展開の基本方向も踏まえながら、北海道地域振興条例の基本理念である「道民及び市町村の創意と主体性」、「道民、市町村、道の協働」及び「地域相互の連携と補完」という考え方のもと、地域の総力により地域づくりを進めるため、市町村や地域の関係者の参画を得て、振興局が主体となり策定します。



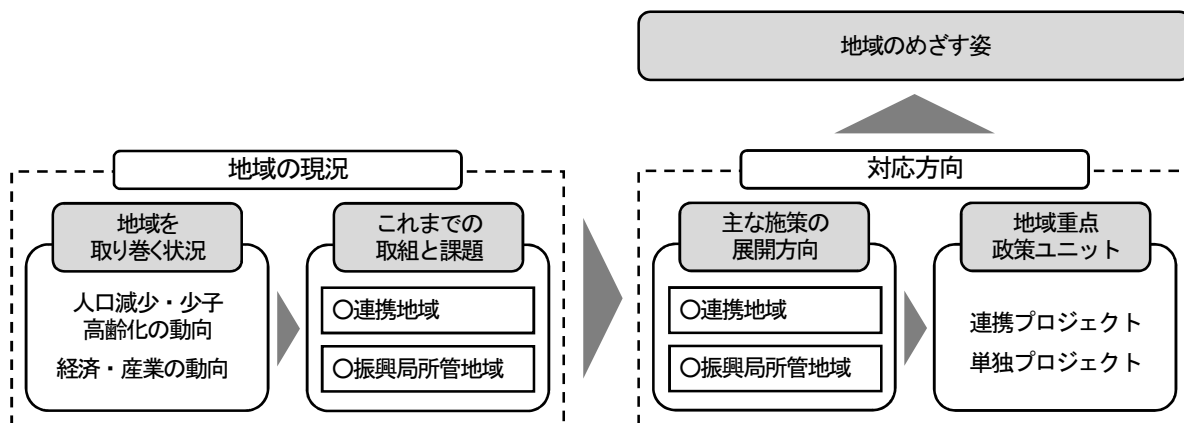
## 方針の位置づけ

この方針は、北海道地域振興条例第5条に基づき総合計画が示す政策の基本的な方向に沿って、広域的な地域の区分ごとに地域振興を効果的に推進するための「地域計画」として策定するものであり、総合計画を推進する手立ての一つとなるものです。

また、総合計画に基づく重点戦略計画である北海道創生総合戦略の「地域戦略」としての位置付けを併せ持つものです。

## 方針の構成

地域のめざす姿	・総合計画の終期である令和16年度を目途（概ね10年後）にめざす地域の姿を示しています。
地域を取り巻く状況	・人口減少・少子高齢化の動向と経済・産業の動向の観点による地域の現況を示しています。
これまでの取組と課題	・連携地域と振興局所管地域におけるこれまでの取組と今後の課題を示しています。
主な施策の展開方向	・方針の推進期間における連携地域の主な施策の方向、振興局所管地域の重点的な施策の方向を示しています。
地域重点政策ユニット	・「主な施策の展開方向」に基づき、重点的に取り組むプロジェクトを示しています。



## 方針の推進期間

令和7年度（令和7年4月）から概ね5年

## 2 地域のめざす姿

---

高い価値を持つ文化・歴史を受け継ぎながら、  
デジタル関連産業の集積など  
本道をリードする中核エリアとして、  
次の世代を見据えた持続可能な  
発展をめざす「道央広域連携地域」

空港・港湾などの物流拠点や大学・企業等の研究・開発機能が集中する立地環境の優位性を活かした半導体などデジタル関連をはじめとする産業集積の促進及び産学官金\*連携の推進により、本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出や産業人材の確保・定着に取り組みます。

デジタル技術の活用やブランド化の推進により、地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の持続的発展を図るとともに、豊かな自然・資源を活用し、脱炭素化\*や経済の活性化の両立を図り、持続可能な地域づくりを推進します。

新幹線札幌開業も見据えながら、全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク\*、産業遺産、縄文世界遺産、国立・国定公園など多彩な地域資源を活用した観光振興や文化・歴史の継承・活用を図ります。

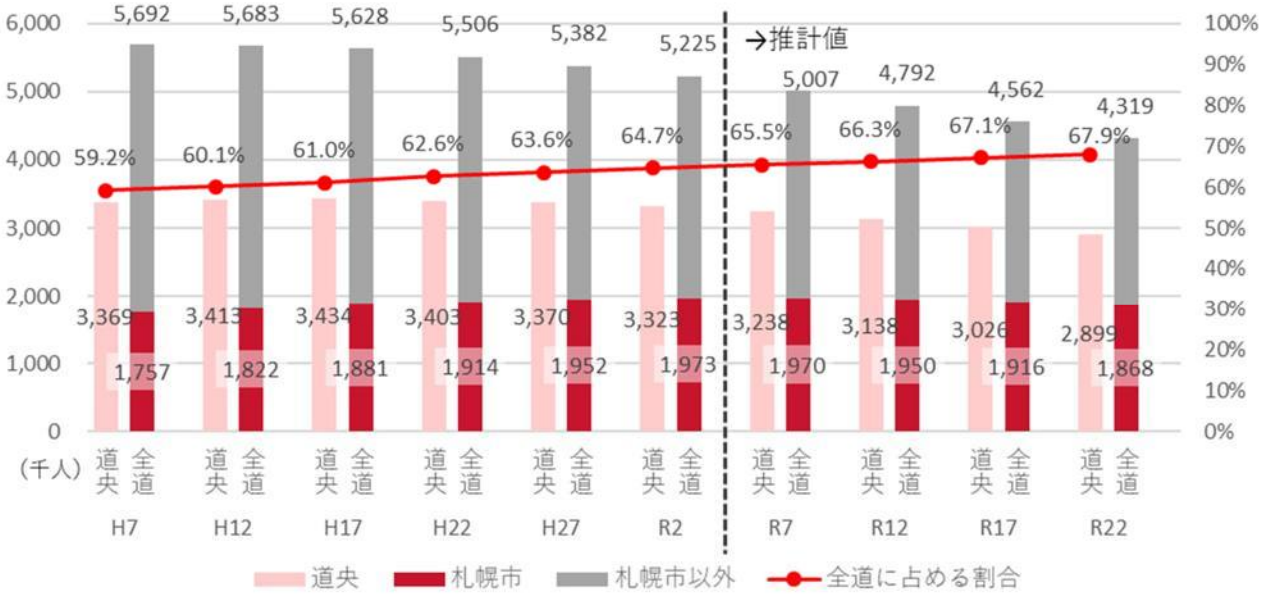
防災・減災、国土強靱化に資するインフラ\*整備、持続的な地域交通・物流の維持確保、地域医療の充実や子ども応援社会の推進など、安全・安心で住みよいまちづくりを進めます。

### 3 地域を取り巻く状況

#### 人口減少・少子高齢化の動向（道央広域連携地域）

- ・道央広域連携地域の人口は、約 332 万人で全道の約 65%を占めています（令和 2 年時点）。
- ・人口は今後 20 年で約 13%減少しますが、全道に占める割合は増加していく見通しです。

#### ■連携地域の人口の推移

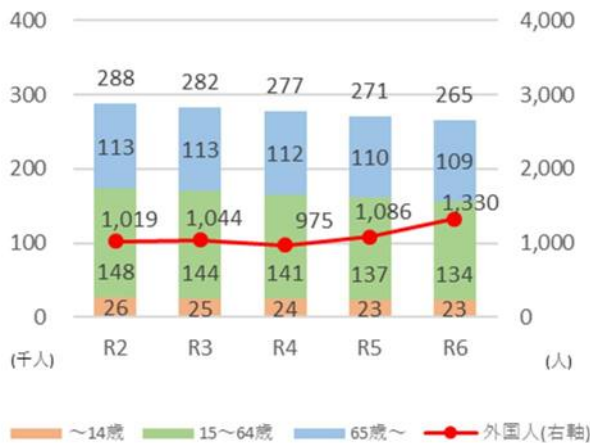


(出典) 総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」

- ・直近 5 年間の人口を振興局所管地域別に見ると、どの地域も生産年齢人口が減少傾向です。
- ・外国人人口は増加傾向にあり、後志地域と日高地域では人口の約 3%を占めています。

#### ■振興局別の人口の動向

##### ・空知地域



(出典) 北海道「振興局市区町村別年齢 5 歳階級別人口」

##### ・石狩地域



(出典) 北海道「振興局市区町村別年齢 5 歳階級別人口」

## 人口減少・少子高齢化の動向（道央広域連携地域）

### ・後志地域



(出典) 北海道「振興局市区町村別年齢5歳階級別人口」

### ・胆振地域



(出典) 北海道「振興局市区町村別年齢5歳階級別人口」

### ・日高地域

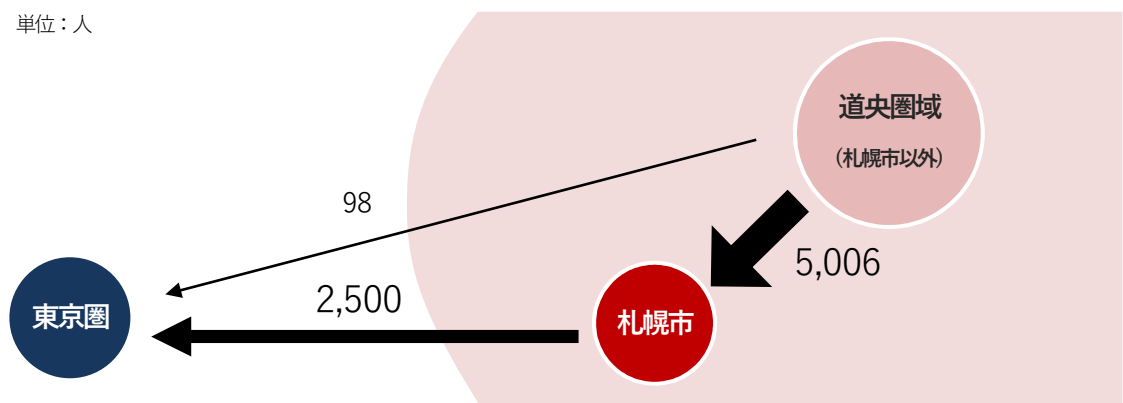


(出典) 北海道「振興局市区町村別年齢5歳階級別人口」

- ・連携地域における圏域内・圏域外の人口移動を見ると、札幌市に対して5,006人の転出超過となっています。（参考：178市町村の札幌市への転出超過数は11,753人。）
- ・札幌市から東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）に対しては2,500人の転出超過となっています。

### ■圏域内・圏域外の人口移動（2023年）

単位：人

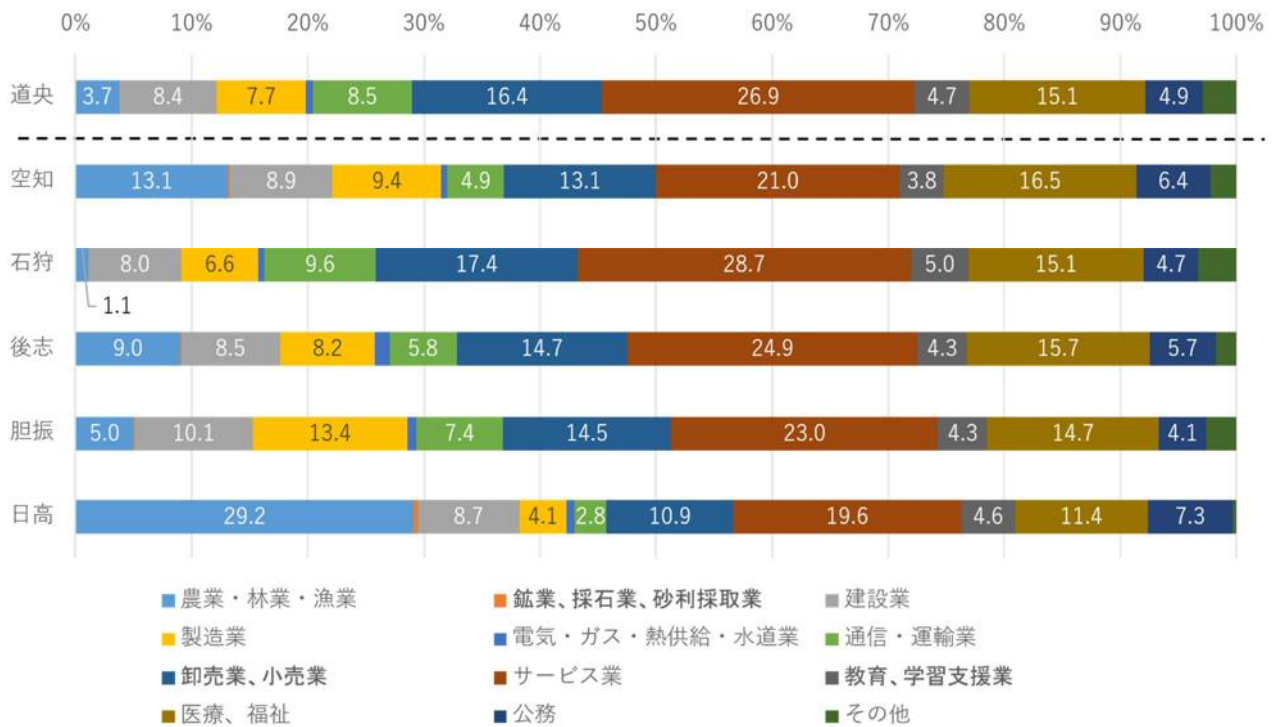


(出典) 北海道「北海道人口動態実態調査・要因分析事業」  
※北海道「振興局市区別道外転入転出者数」をもとに作成したもの

## 経済・産業の動向（道央広域連携地域）

- ・道央圏における産業別就業者の割合を見ると、「サービス業（26.9%）」、「卸売業、小売業（16.4%）」、「医療、福祉（15.1%）」の順に高くなっています。
- ・一次産業である「農業・林業・漁業」の割合について、振興局別に見ると、「日高（29.2%）」、「空知（13.1%）」、「後志（9.0%）」の順に高くなっています。

### ■産業構造（道央圏域）



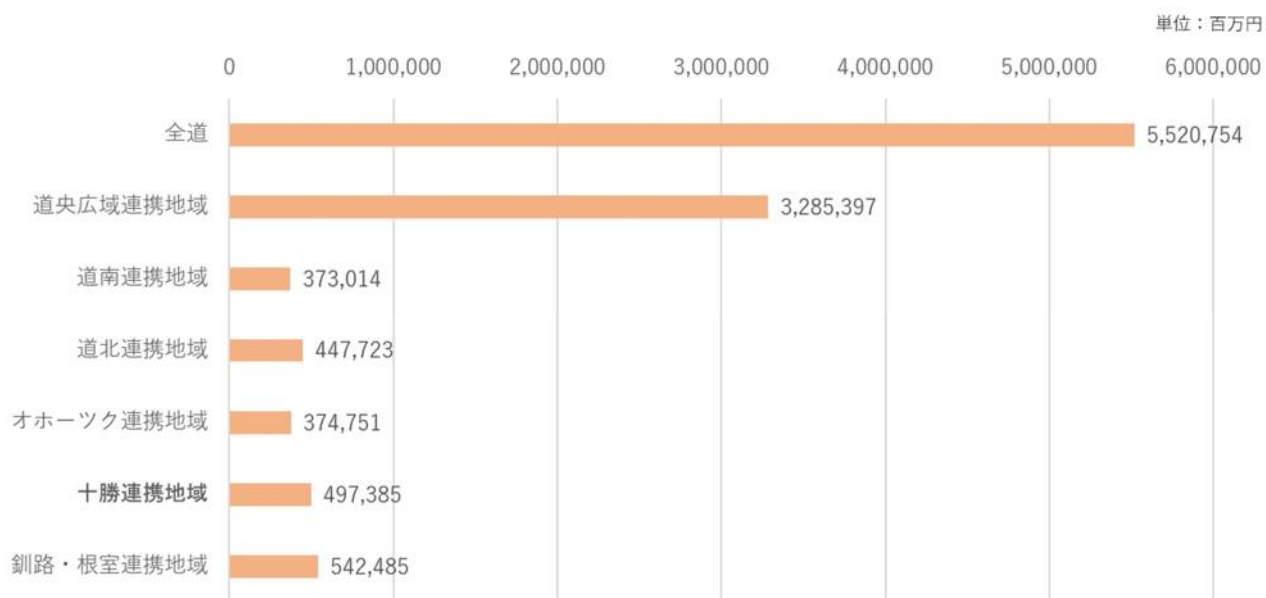
(出典) 令和2年国勢調査



## 経済・産業の動向（道央広域連携地域）

- ・本道の製造品出荷額を地域別にみると道央広域連携地域が3兆2,853億97百万円で、全道（5兆5,207億54百万円）の約6割を占めています。

### ■連携地域別製造品出荷額等（従業者4人以上の事業所）

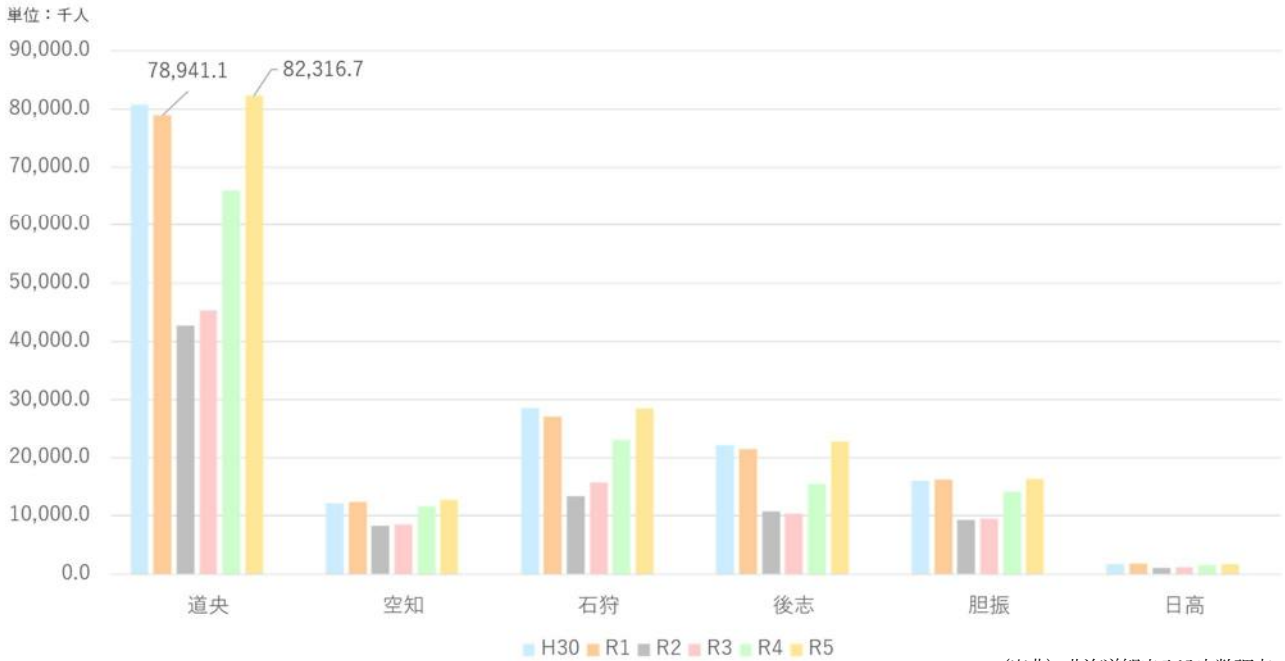


(出典) 令和3年経済サンセス

## 経済・産業の動向（道央広域連携地域）

- 道央圏における観光入込客数の推移を見ると、令和5年度の観光入込客数は、82,316.7千人で、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度（78,941.1千人）と比較すると、3,375.6千人増加（+4.3%）しています。
- 訪日外国人宿泊者数の推移を見ると、令和5年度は、4,818,756人で、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度（5,479,692人）に比べ、87.9%まで回復しています。

### ■観光入込客数の推移



### ■訪日外国人宿泊者数（延べ人数）

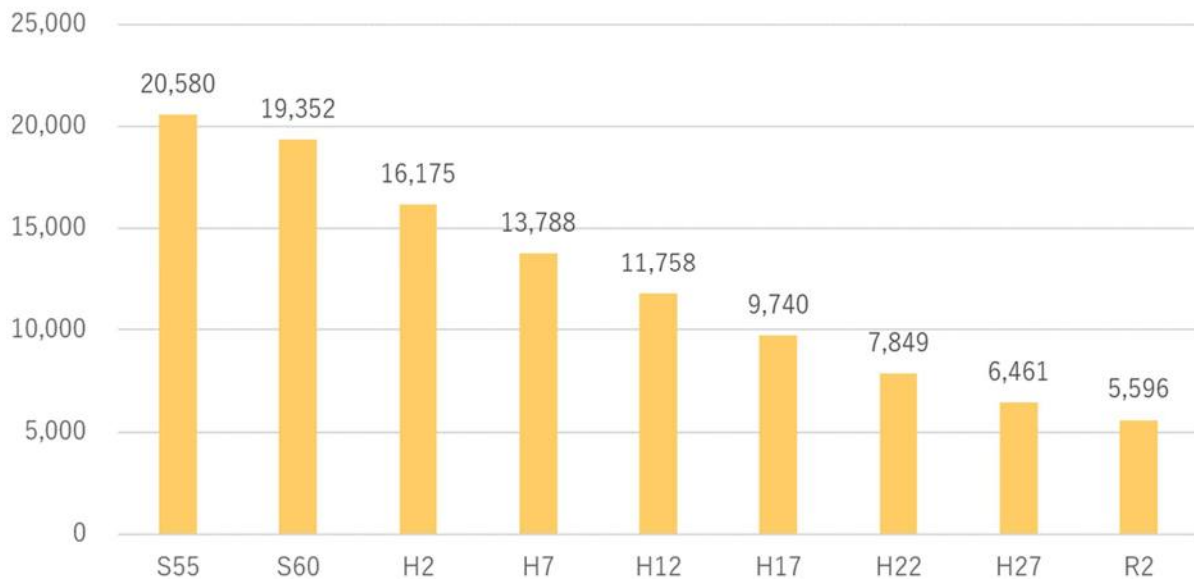


## 経済・産業の動向（空知地域）

- ・農家戸数は年々減少し、令和2年は5,596戸と平成27年に比べ865戸減少しています。
- ・一方、経営耕地面積規模別の農家戸数を見ると、昭和60年には1.2%に過ぎなかった「20ha以上」の経営体の割合が、令和2年には32.3%にまで増加するなど、経営規模の拡大が進んでおり、ICT\*やAI\*技術を活用したスマート農業\*の推進など、生産性の向上が必要です。

### ■農家戸数（販売農家）の推移

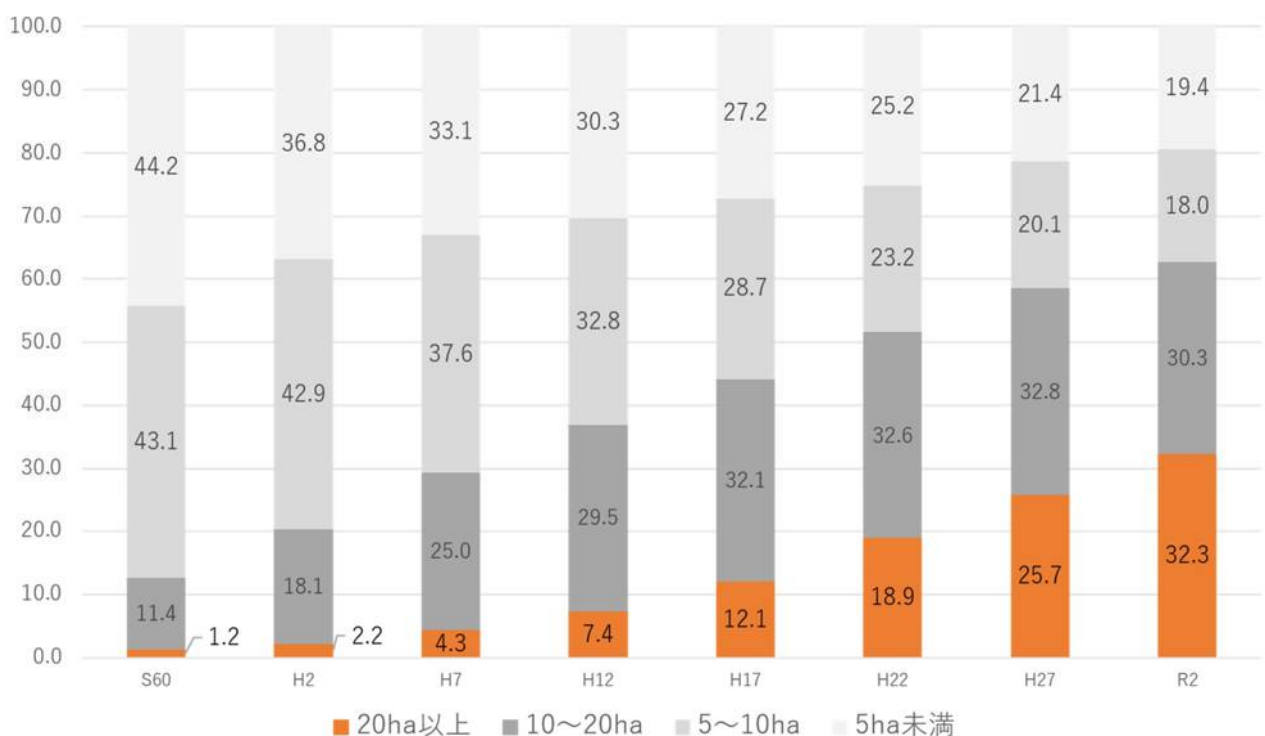
単位：戸



(出典) 農林業センサス

### ■経営耕地面積規模別農家戸数の割合

単位：%

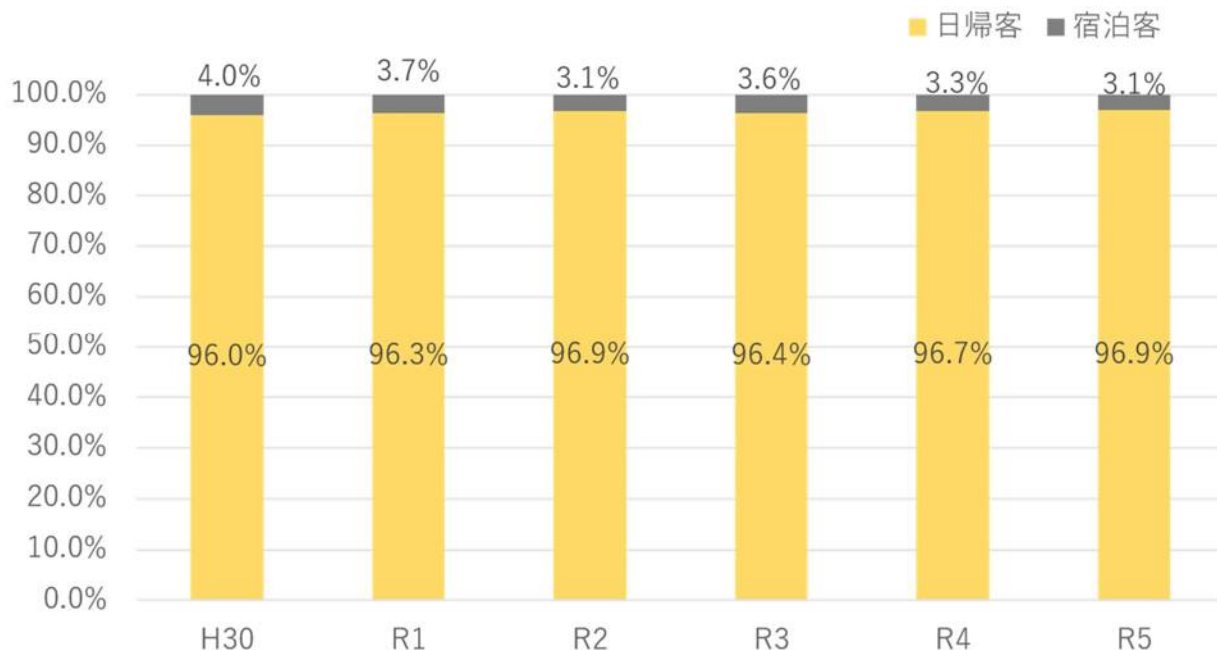


(出典) 農林業センサス

## 経済・産業の動向（空知地域）

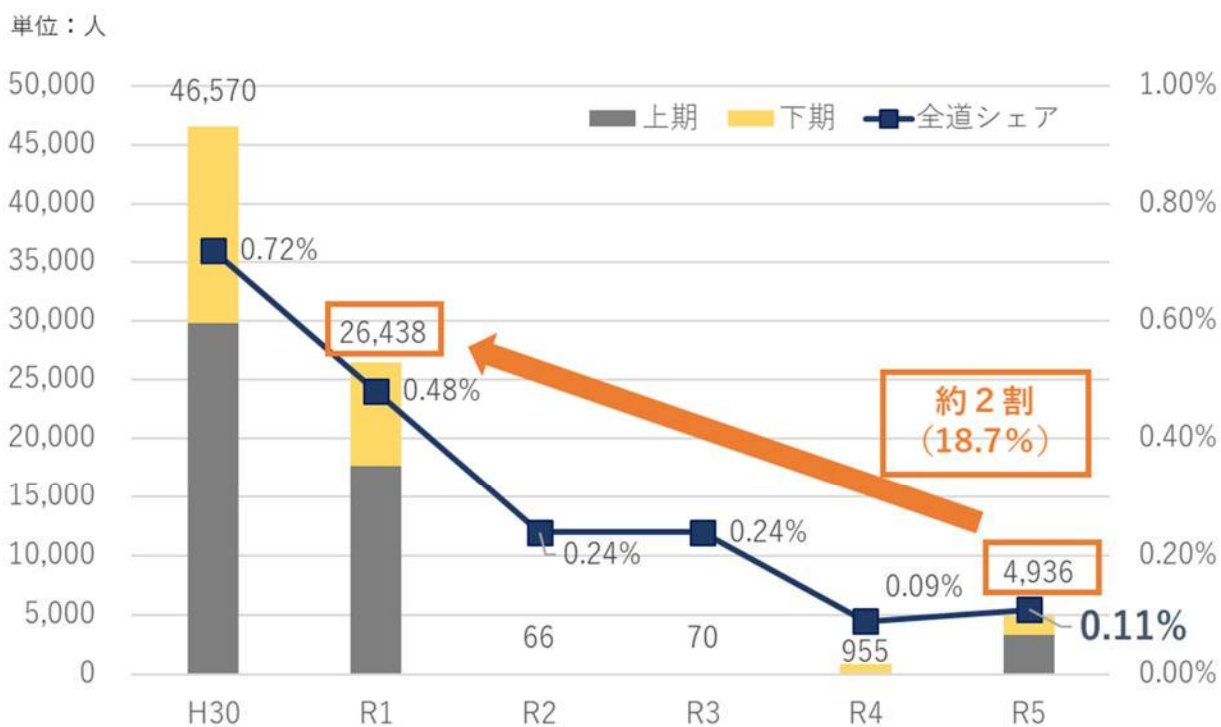
- ・観光入込客数の日帰客、宿泊客の構成比を見ると、令和5年度では「日帰客」が96.9%、「宿泊客」が3.1%と、日帰客が主体となっています。
- ・訪日外国人宿泊者数（実人数）の推移を見ると、令和5年度は4,936人で、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度（26,438人）との比較では、「約2割（18.7%）」の水準に留まっています。また、全道シェアは、令和5年度で「0.11%」と、依然低い水準にあります。

### ■観光入込客数（日帰客・宿泊客構成比）の推移



(出典) 北海道観光入込客数調査

### ■訪日外国人宿泊者数（実人数）の推移

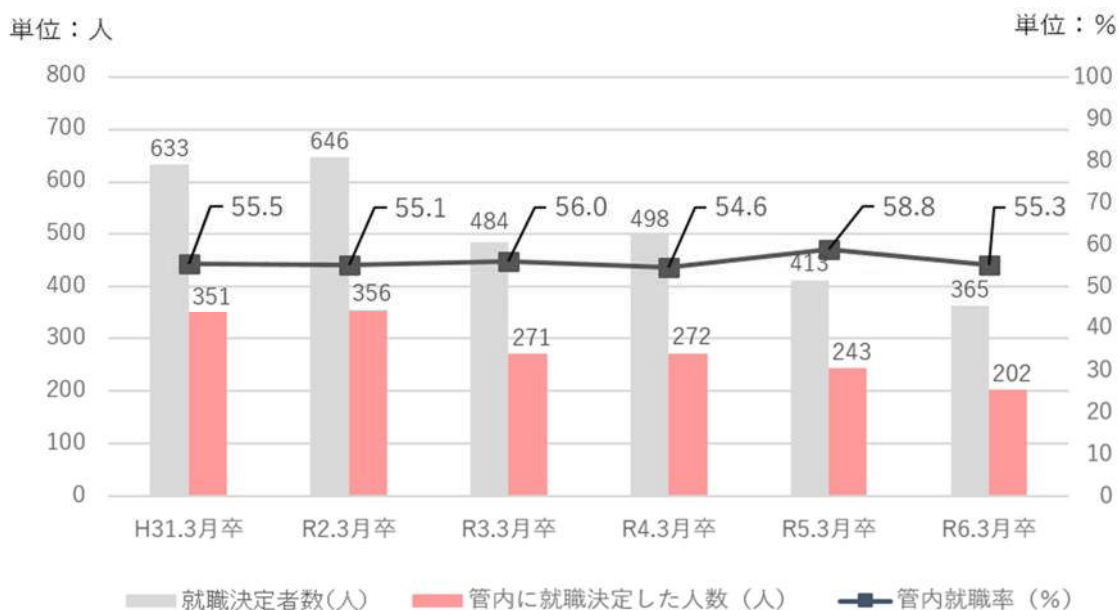


(出典) 北海道観光入込客数調査

## 経済・産業の動向（空知地域）

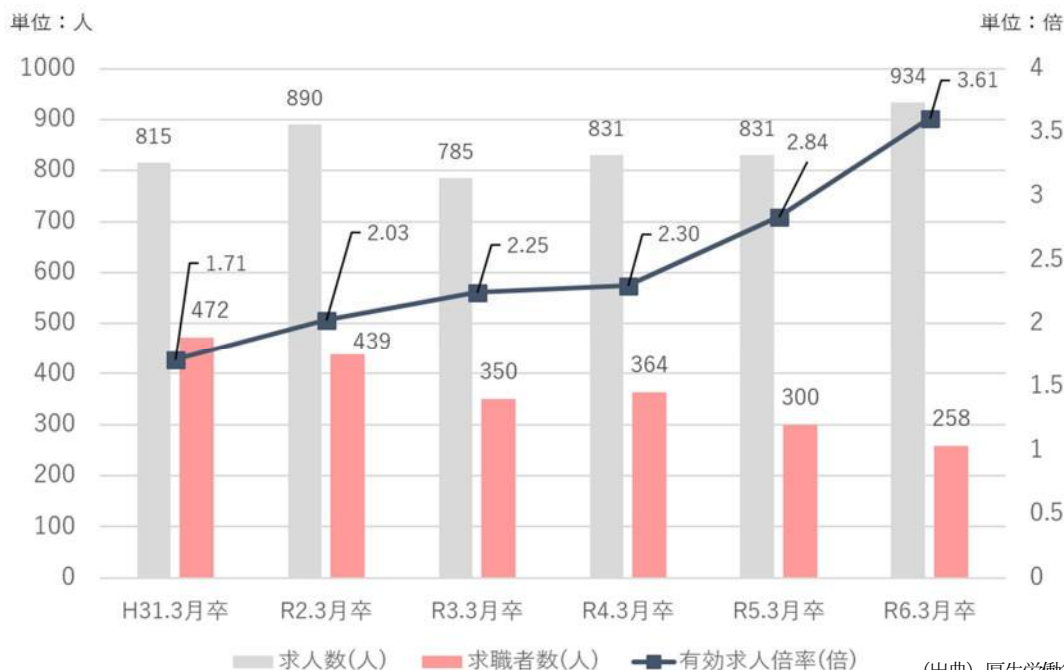
- ・高校生の管内就職率の推移を見ると、令和6年3月卒業時点では、55.3%となっており、半数弱が管外に就職している状況にあります。
- ・空知地域（※）における新規高卒者の有効求人倍率の推移を見ると、年々増加傾向にあり、令和6年3月時点で3.61倍となっています。

### ■管内高校生の就職率



(出典) 教育庁空知教育局

### ■新規高卒者の有効求人倍率、職業紹介状況



(出典) 厚生労働省北海道労働局

※ハローワーク岩見沢、ハローワーク滝川の各所管エリアにおける公表数値をまとめた参考値。

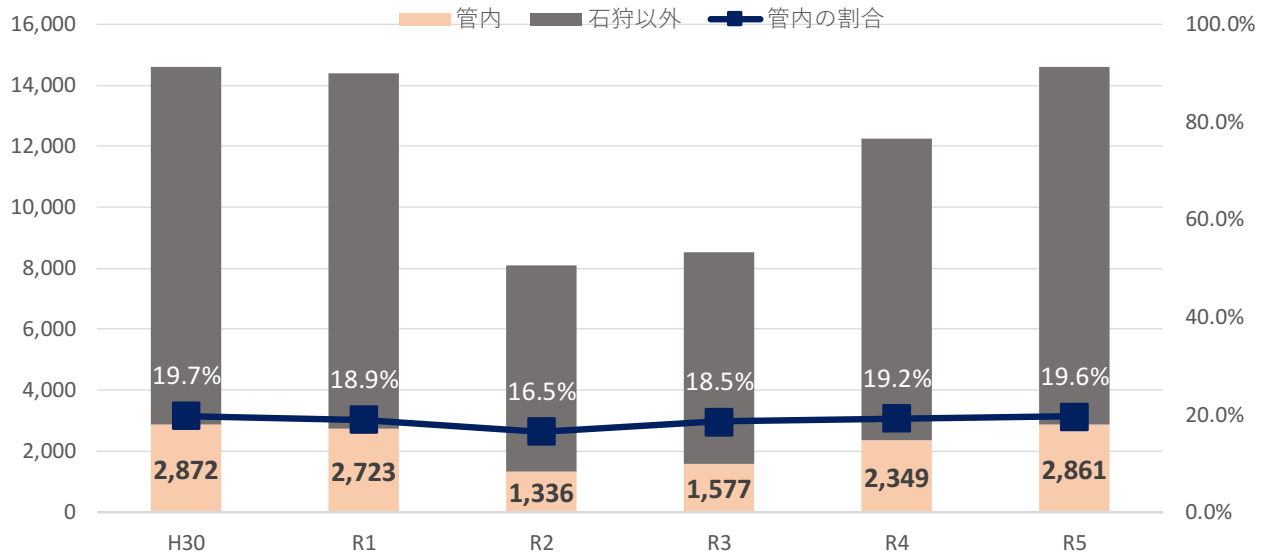
- ・所管エリア：ハローワーク岩見沢→岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、浦臼町、月形町  
ハローワーク滝川→滝川市、芦別市、赤平市、新十津川町、石狩市浜益区

## 経済・産業の動向（石狩地域）

- 令和5年度の石狩管内における観光入込客数は、2,861万4千人で、前年度に比べ512万4千人（21.8%）の増加、訪日外国人宿泊客数（延べ人数）は2,896,528人となり、前年度の543,916人から大幅に増加しました。
- 石狩管内が占める全道の割合は、観光入込客数は約2割を、訪日外国人宿泊客数（延べ人数）では約4割を占めています。

### 北海道観光入込客数の推移

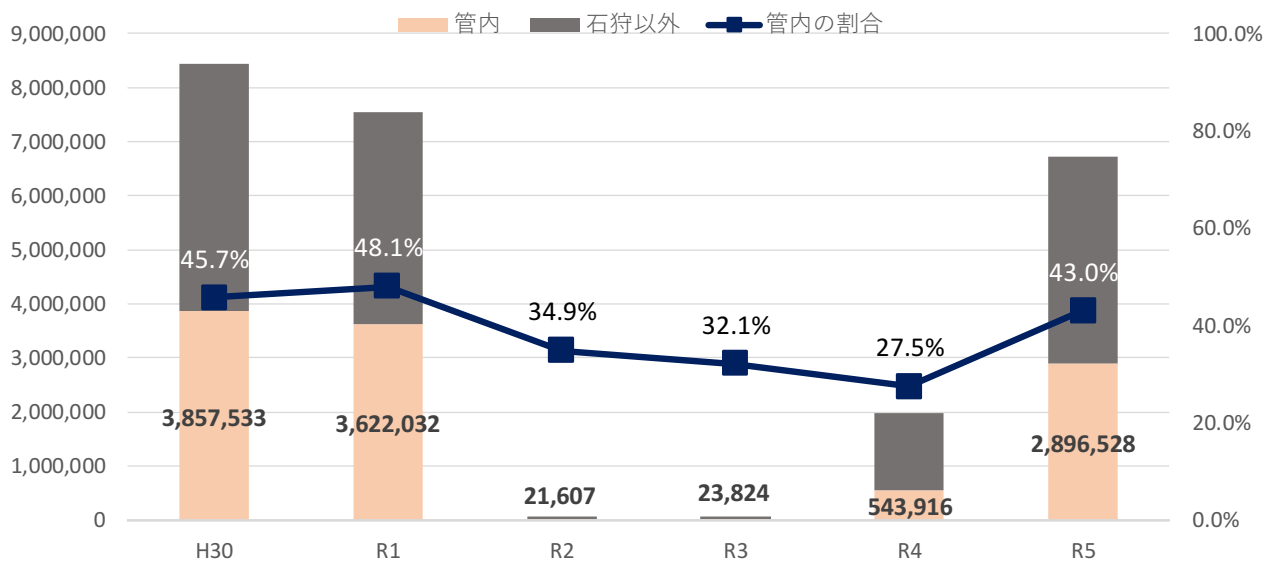
（単位：万人）



（出典）北海道観光入込客数調査

### 北海道への訪日外国人宿泊者数（延べ人数）の推移

（単位：人）

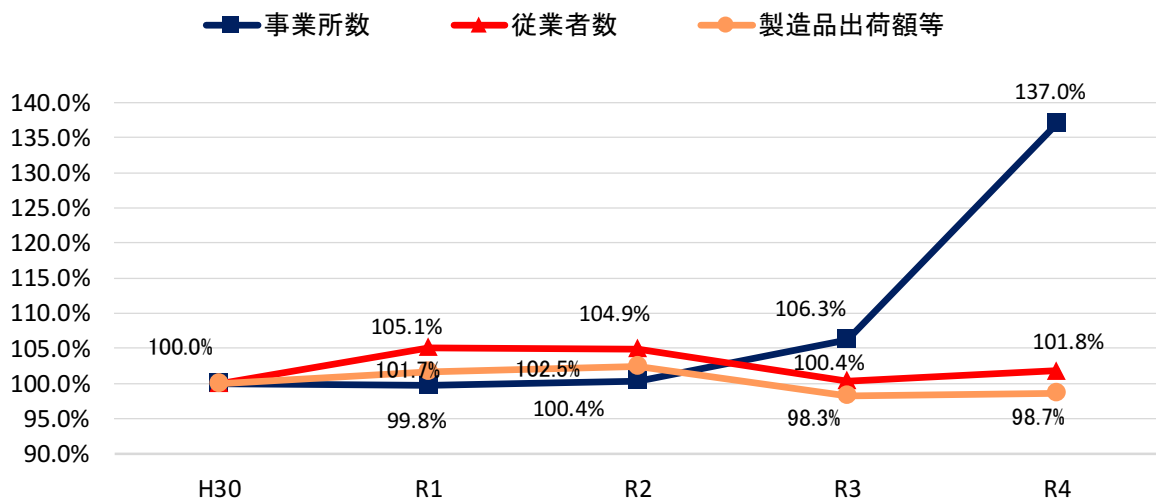


（出典）北海道観光入込客数調査

## 経済・産業の動向（石狩地域）

- 石狩地域は、石狩湾新港地域をはじめとした工業団地を有し、多くの企業や事業所の立地が進んでいる地域です。
- 管内各地は再生可能エネルギー※の宝庫であり、多くの発電所が稼働しています。令和5年5月には、石狩市沖が再エネ海域利用法に基づく促進区域の指定に向けて「有望な区域」に位置づけられ、令和6年1月に、石狩湾新港の港湾区域で大規模な洋上風力発電所が稼働を開始しました。

### ■工業主要項目の推移



※ 平成30年を100%としている

(出典) H30～R2:工業統計調査、R3:経済センサス活動調査、R4:経済構造実態調査

### ■再生可能エネルギーを活用した発電施設数

(令和5年6月30日現在)

市町村名	太陽光発電	風力発電	水力発電	バイオマス発電
札幌市	8	0	2	2
江別市	9	0	0	4
千歳市	15	0	0	1
恵庭市	7	0	2	2
北広島市	8	0	0	1
石狩市	10	7	0	2
当別町	2	0	0	1
新篠津村	2	0	0	0
管内計	61	7	4	13

※ 発電施設については、FIT認定を受けた施設数

※ 太陽光発電施設はメガソーラーのみ、風力発電施設は20kw以上の施設を計上

(出典) 資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法情報公表用ウェブサイト」

## 経済・産業の動向（後志地域）

・後志地域では、米、畑作物、野菜、果樹、魚など、様々な農畜水産物を生産しています。

### ■後志管内の主な農畜産物収穫量及び家畜飼養頭羽数

農産物収穫量				家畜飼養頭羽数	
米 (令和4年)	23,300 t	てん菜 (令和4年)	68,600 t	乳用牛 (令和5年)	4,294 頭
小麦 (令和4年)	8,080 t	牛乳 (令和4年)	21,628 t	肉用牛 (令和5年)	1,781 頭
馬鈴薯 (令和4年)	132,500 t	りんご (令和3年)	2,697 t	豚 (令和5年)	49,950 頭
大豆 (令和4年)	4,070 t	ぶどう (令和3年)	3,642 t	採卵鶏 (令和2年)	26,000 羽
小豆 (令和4年)	3,308 t				

(出典) 後志の農業2024

### ■管内魚種別生産数量の推移



(出典) 後志総合振興局調べ



・比較的温暖な気候を活かし、醸造用ぶどうの栽培も盛んです。醸造用ぶどうの収穫量やワイナリー数は年々増加しており、管内には、道内のおよそ半数のワイナリーが集まっています（令和6年2月現在：道内 64 カ所・後志 28 カ所）。

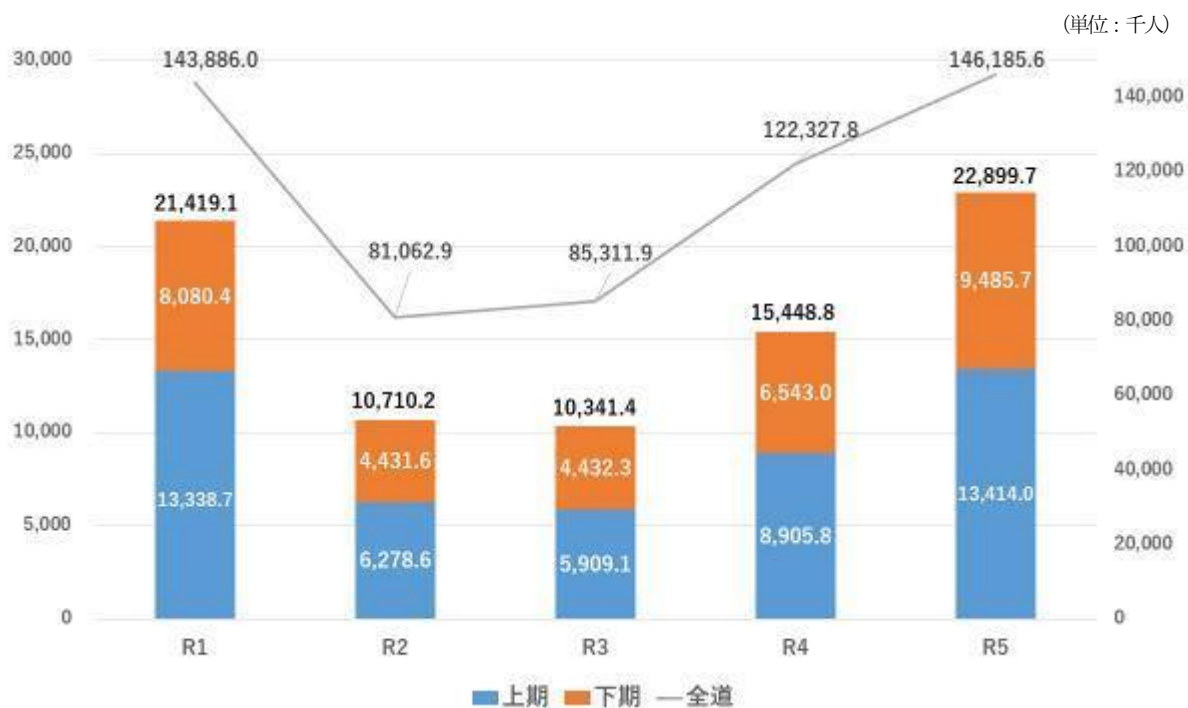
■管内加工用専用品種（ぶどう）の収穫量



(出典) 後志総合振興局調べ

・令和5年度（2023年度）の管内観光入込客数は、22,899,700人となり、前年度の15,448,800人から7,450,900人（+48.2%）増加しています。

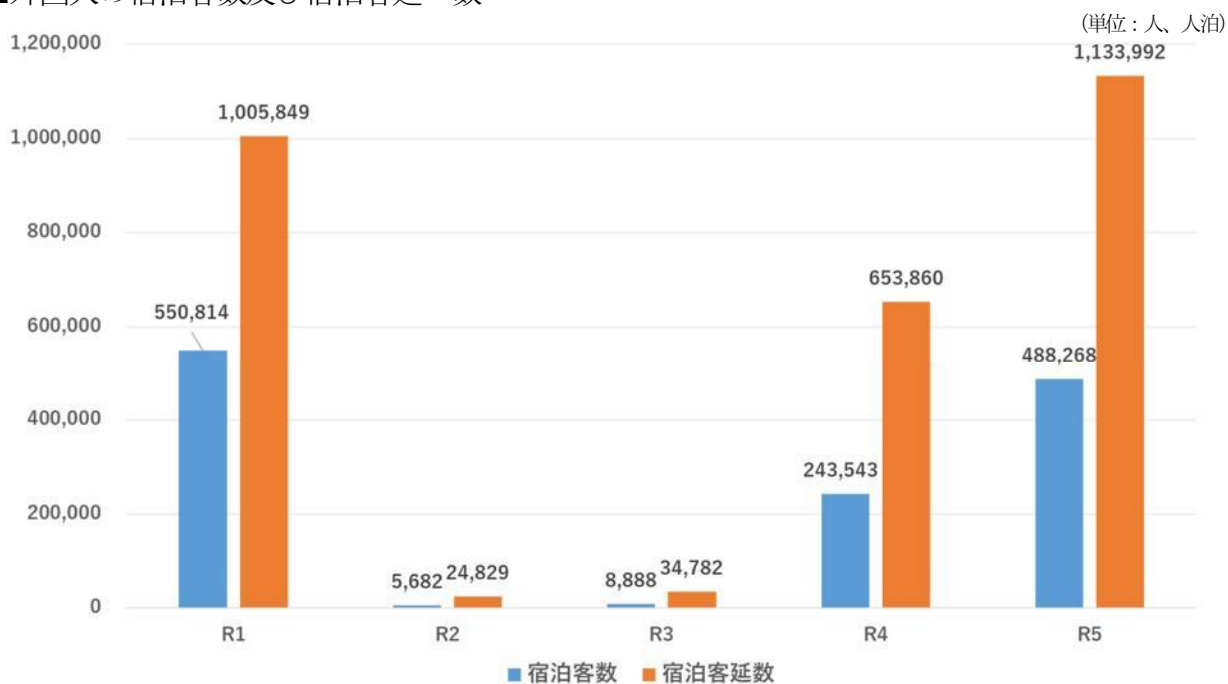
■観光入込客数（延べ人数）



(出典) 北海道観光入込客数調査報告書

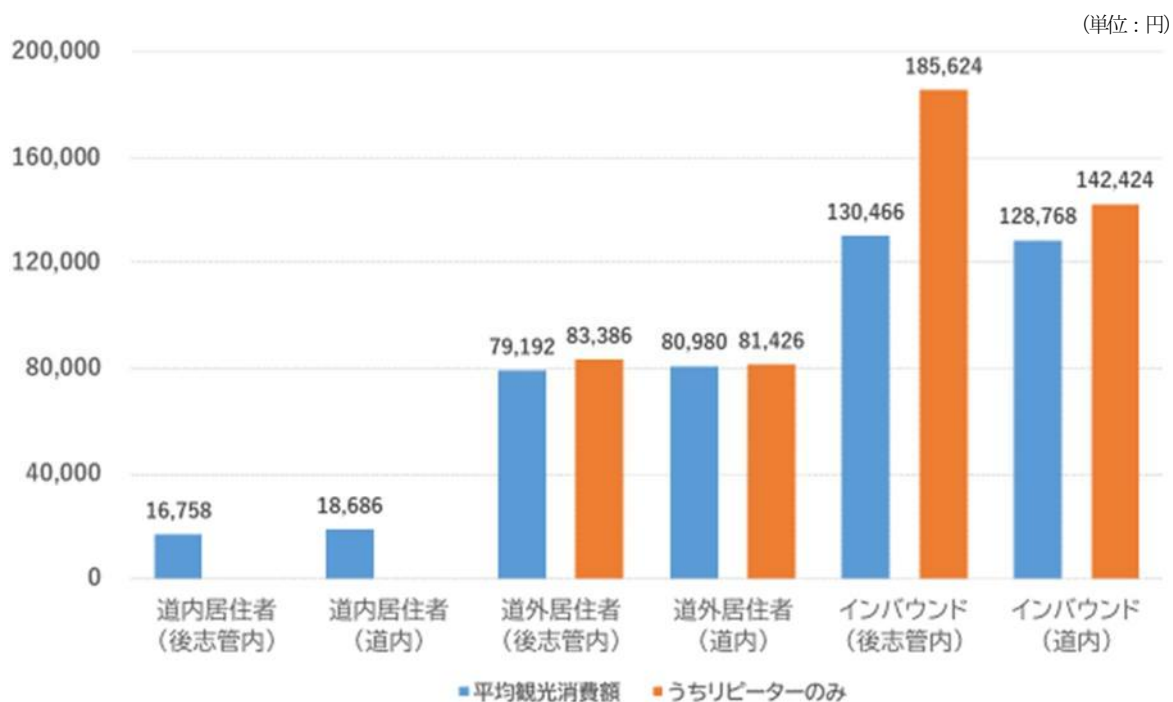
- ・特に、小樽やニセコエリアを中心に外国人観光客が多く訪れており、令和5年度（2023年度）の外国人延べ宿泊数は、1,133,992人泊となっています。
- ・観光客一人当たりの消費額は、インバウンド\*が最も高く、次いで道外居住者、道内居住者の順となっており、全道の状況と同様の傾向にありますが、インバウンドのリピーターについては後志の消費額が特に高くなっています。

### 外国人の宿泊客数及び宿泊客延べ数



(出典) 北海道観光入込客数調査報告書

### 令和5年度 観光客一人当たりの観光消費額



(出典) 後志観光実態調査

## 経済・産業の動向（後志地域）

- ・後志地域でも、全道と同様、各産業において人材不足の状況にあり、サービス業をはじめとして、医療福祉、生産・工程、輸送・機械運転など、多くの分野において、全道の有効求人倍率を上回っている状況にあります。

### ■後志管内の有効求人倍率

(単位：倍)

	農林漁業	建設・採掘	生産・工程	運搬・清掃	販売職	サービス業	輸送・機械運転	事務職	医療・福祉
全道	1.58	3.37	2.21	0.65	1.60	2.41	1.70	0.43	1.96
後志地域	1.70	2.26	2.78	0.98	2.10	3.08	2.43	0.72	2.87
小樽地区	0.81	1.66	3.07	0.91	2.23	3.05	2.56	0.70	2.76
岩内地区	2.71	4.27	2.17	1.19	1.65	3.15	2.15	0.77	3.49

(出典) ハローワーク小樽、ハローワーク岩内の各所管エリアにおける公表数値（令和6年3月）

#### 【所管エリア】

- ・小樽→小樽市、余市町、仁木町、赤井川村、古平町、積丹町
- ・岩内→岩内町、共和町、蘭越町、黒松内町、寿都町、島牧村、神恵内村、泊村、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町

## 経済・産業の動向（胆振地域）

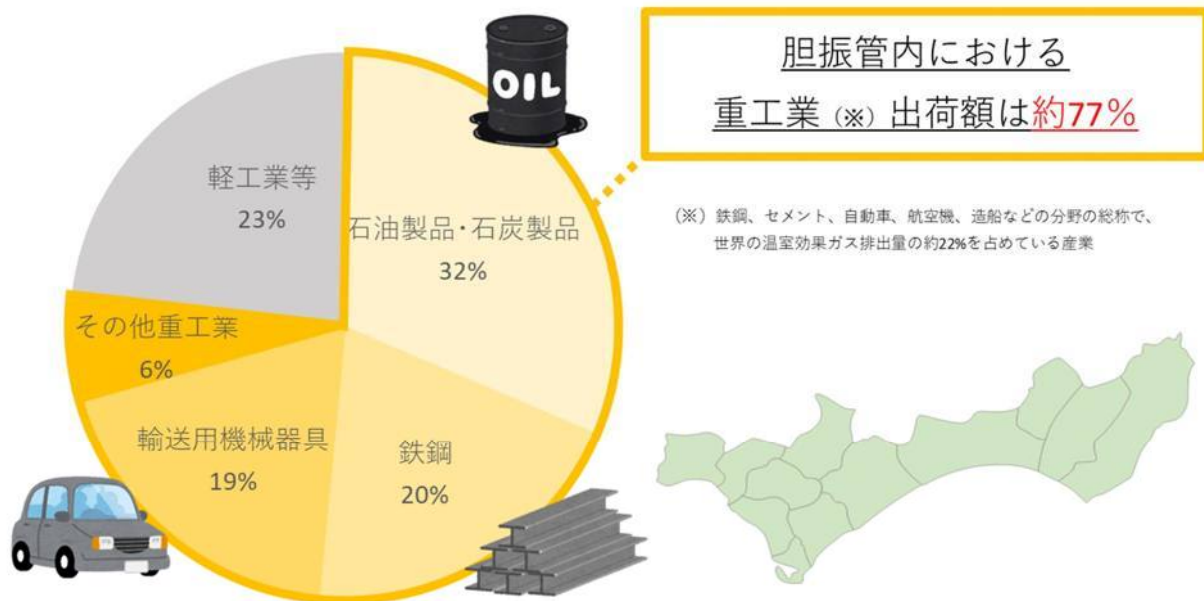
- ・令和3年度における胆振管内のCO<sub>2</sub>排出量は6,743千tと全道の約14%を占めており、そのうち「製造業」の排出量は3,907千tと約60%を占めています。
- ・胆振管内における製造品出荷額等の工業種別内訳は「石油・石炭製品」、「鉄鋼」など重工業が約77%を占めています。

### ■胆振管内CO<sub>2</sub>排出量の推移（部門・分野別）



（出典）環境省 自治体排出量カルテ（令和3年度）

### ■製造品出荷額等の工業種別内訳（R3）

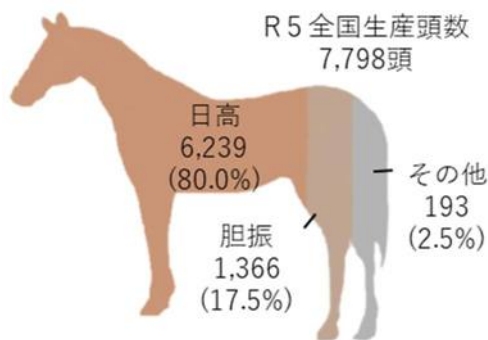


（出典）令和3年経済センサス

## 経済・産業の動向（日高地域）

- ・日高地域は、国内生産頭数の約8割を占める全国一の馬産地として、中央・地方競馬の開催に大きな役割を担っています。
- ・コロナ禍により減少した観光入込客数は増加傾向にあり、令和5年度には令和元年度の90%まで回復しています。また、全体の約8割から9割を日帰り客が占めており、通過型の観光地となっています。

### ■軽種馬生産の地域別構成



(出典) 日本軽種馬協会「軽種馬統計」

### ■過去5年間の観光入込客数の推移



(出典) 北海道観光入込客数調査

- ・日高地域では人手不足が深刻化しており、特に基幹産業である一次産業（農林漁業）における有効求人倍率が全道に比して高くなっています。
- ・また、一次産業への新規就業者数は、農業・漁業・林業ともに伸び悩んでいます。

### ■農林漁業の有効求人倍率



(出典) 北海道労働局「雇用失業情勢」  
ハローワーク浦河「一般職業紹介状況」

※ハローワーク浦河の所管エリア

→ 新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町

### ■新規就業者数の推移



(出典) 新規就農者実態調査

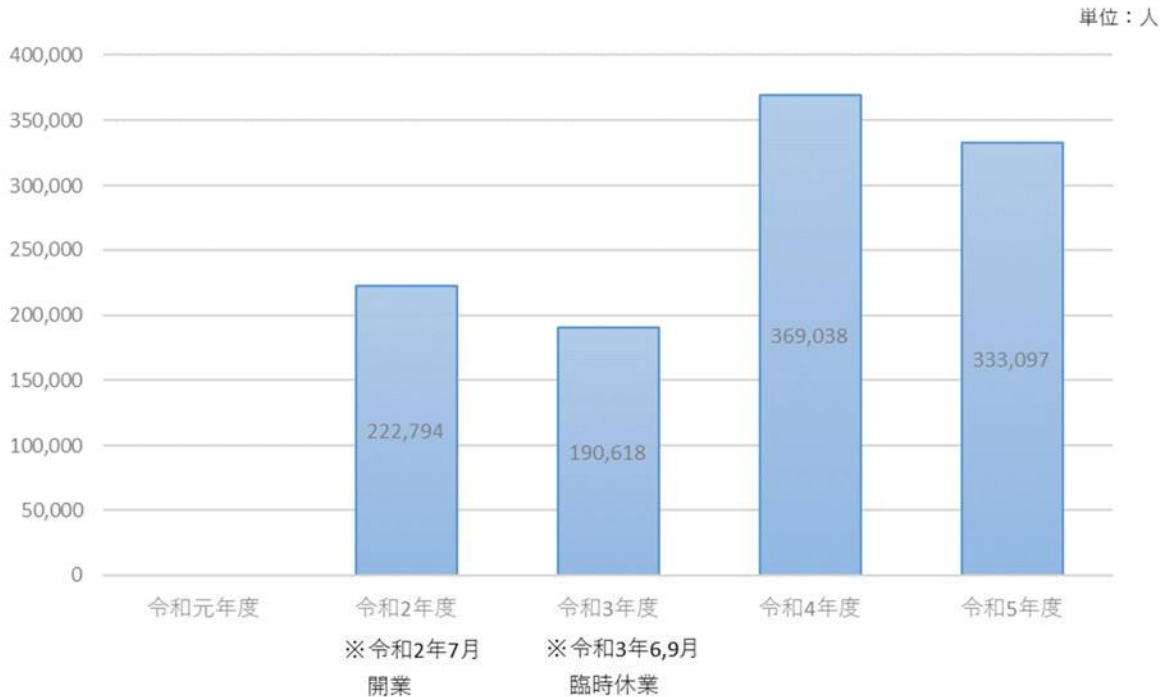
道水産林務部調べ

林業労働力実態調査 ※隔年実施

## 経済・産業の動向（胆振・日高地域）

・胆振・日高管内におけるアイヌ文化に関する主要な施設の来場者数について、コロナ禍により一旦は落ち込んだものの、その後は回復傾向にあります。胆振、日高の R5 年度合計人数は 423,886 人となり、R4 年度から 29,768 人（-7.0%）減少しております。

### ■ウポポイ※（民族共生象徴空間）の年間来場者数



（出典）ウポポイ：アイヌ文化振興財団調べ

### ■日高・胆振管内アイヌ文化に関する主要施設の年間来場者数



#### 【参照施設】

- ・平取町立二風谷アイヌ文化博物館
- ・新冠町郷土資料館
- ・新ひだか町博物館
- ・新ひだか町アイヌ民俗資料館
- ・浦河町立郷土博物館

#### 【参照施設】

- ・室蘭市民俗資料館（とんとん館）
- ・苫小牧市美術博物館
- ・登別市郷土資料館
- ・だて歴史文化ミュージアム

※令和5年臨時休館  
（新ひだか町アイヌ民族資料館）

（出典）：日高振興局・胆振総合振興局調べ